

1. 評価項目

作成日 平成21年4月17日

【評価実施概要】

事業所番号	2773001280		
法人名	株式会社ケア21		
事業所名	グループホームたのしい家東淀川		
所在地	大阪府大阪市東淀川区東中島1-7-22 (電話) 06-6990-5721		
評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社ヤトウ 大阪支店		
所在地	大阪市中央区平野町3-1-9 KURAOビル4階		
訪問調査日	2009年3月28日	評価確定日	

【情報提供票より】 (2009年年2月25日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 17年 4月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	8 人
職員数	10 人	常勤 9人, 非常勤 1人, 常勤換算	7.4人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り	
	10 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	85,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(310,000 円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(465,000 円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,500 円

(4) 利用者の概要 (2月 25日現在)

利用者人数	8 名	男性 1 名	女性 7 名
要介護1		要介護2	
要介護3	5 名	要介護4	3 名
要介護5		要支援2	
年齢	平均 86 歳	最低 75 歳	最高 98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	大阪北ホームクリニック
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

本ホームは、法人内で最初に設立された認知症対応型グループホームであり、1ユニットの手厚いケアを目指している。新大阪駅の近くに位置し、比較的交通の便が良い立地である。「職員が楽しくないと、入居者は楽しくない」という意識、管理者を始めとして職員が共通認識しており、雰囲気の良いホームである。提携医療機関との連携がしっかりできており、家族も安心できる環境になっている。職員が積極的に地域と交流し、児童に来てもらったりして、入居者が笑顔になる場を提供している。家族の訪問が多く、ホームの取り組みについて協力を得ることが出来ている。研修は法人内外を通じて積極的に参加している。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価実施後、職員間の意見交換を行う機会を確保するよう努力されている。今回の外部評価実施をするにあたっては、職員へ評価の意義を周知し、意見を反映させるよう努めている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者やケアマネジャーは日常的に職員の声を拾い、今回の自己評価に反映させた。外部評価の実施について職員全員に周知を行ったが、外部評価の十分な周知にまでは至っていない。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月に1回開催し、家族、地域住民、行政関係者等が参加している。行事や研修等の報告や意見交換を行い、そこで得た意見や要望等をケアに生かそうと努めている。参加家族を増やす工夫も検討している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	月に一回、預かり金の明細報告や主治医からの情報提供などを家族に送付する際に、入居者の近況等の情報を伝えている。発熱、転倒等、体調に急な変化があった時は随時報告している。ホーム内に意見箱を設置したり、家族へアンケート調査を行ったり、要望や意見を出し易い雰囲気作りに努めている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	近隣の保育所や小学校等と積極的に交流し、子供たちと触れ合う機会を確保するよう努めている。地域の催し物やバザー、夜店、盆踊り等にも参加している。

評 価 項 目

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	管理者はグループホームの意義等を理解し、「安全で安楽のたのしい家」というホーム独自の理念を掲げ、その理念に基づいて職員を教育している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム内に理念を掲げ、朝礼時に再確認を行うなど、職員の理念の共有を促している。現場第一主義をキーワードに、職員が楽しんで業務を行わなければ、入居者が楽しんで生活できないと考えている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の保育所や小学校等と積極的に交流し、子供たちと触れ合う機会を確保するよう努めている。地域の催し物やバザー、夜店、盆踊り等にも参加している。	○	自治会に加入するまでには至っていない。今後は自治体に加入することで、地域との連携をさらに強め、さらに地域に密着した交流や情報収集を図ることを検討されたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価実施後、職員間の意見交換を行う機会を確保するよう努力されている。今回の外部評価実施をするにあたって、職員へ評価の意義を周知し、意見を反映させるよう努めている。	○	前回の外部評価実施当時の所属職員がかなり入れ替わっており、評価についての十分な周知にまでは至っていない。外部評価の意義の周知についての努力を継続されることを期待したい。

事業所名:グループホームたのしい家東淀川

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、家族、地域住民、行政関係者等が参加している。行事や研修等の報告や意見交換を行い、そこで得た意見や要望等をケアに生かそうと努めている。参加家族を増やす工夫も検討している。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターのあんしんサポートを利用したり、認定調査員からの情報提供を受けたりしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	月に1回、預かり金の明細報告や主治医からの情報提供などを家族に送付する際に、入居者の近況等の情報を伝えている。発熱、転倒等、体調に急な変化があった時は随時報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム内に意見箱を設置したり、家族へアンケート調査を行ったり、要望や意見を出し易い雰囲気作りに努めている。家族は頻繁に面会に来てくれるのでその時に意見を聞いている。カンファレンスで出された意見は計画書などに反映している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居者が馴染みの職員の異動や退職で不穏にならないように、入居者個々に合った説明を職員間で統一、共有し、同じ説明を何度もできるようにしている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内部に職員研修の年間計画があり、職員個々の経験等に応じてステップアップしている仕組みがある。事業所も法人の内外を問わず、職員が積極的に研修に参加できるようシフト調整を行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内のグループホーム同士の交流を持つ機会を設け、積極的に情報交換を行っている。有料老人ホームへも、情報交換のため交流を持ち、ネットワークを広げている。	○	現在、地域の同業者との交流は持っていない。今後は同法人グループ内の交流にとどまらず、法人外のグループホームとの交流も検討いただきたい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族とは何度も面接し、サービス利用以前の生活歴をしっかりと聞き取り、職員間で共有している。馴染みの家具や衣類を持ち込んでもらうようにし、自宅の雰囲気近づけるように配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者の得意なこと、できることを職員全員で共有し、できる家事は一緒になって行っている。職員が入居者さんにマッサージしてもらったり、励まされたりと、共に楽しく過ごすようにしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思表示できない入居者に対しても、日頃の表情や身体の動きを観察し、意向を把握するよう努力している。気づいたことは職員間で情報交換し皆が把握し、分からないことは家族に意見を聞いている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者の普段の状態を把握し、職員間で申し送りや意見交換、家族との話し合い等を行って、職員と家族の意見を反映した計画づくりに努めている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケースカンファレンスを定期的を開催し、入居者の状況把握や意見交換を行っている。職員や家族の意見を反映させ、長期・短期目標の設定、見直しを行い、現状に即した計画を作成するよう努めている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	訪問看護、介護タクシー、福祉用具の相談等に加え、かかりつけ医や歯科医、訪問マッサージなど、必要に応じた他機関との連携を図っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前の受診の経過を把握し、家族に説明して合意を得た上で、入居後は提携医の往診を受けている。月2回の定期往診以外に、急変時にも速やかに連携をとっている。他科受診が必要な時は家族または職員が通院介助している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に終末期に積極的な治療を行うかどうか、入居者または家族の意思を確認しており、職員が共有している。実際に容態が変わった時は、その都度再確認を行っている。提携医からも家族に説明を行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	接遇研修を行い、言葉遣い等について職員の意識を喚起し、適切な対応に努めている。個人情報の取り扱いについて明記しており、入居者の個人ファイル等は施錠した棚に保管している。	○	見学时、ホームの玄関に来訪者名簿が無造作に置かれてあった。個人情報保護の観点からも、名簿の置き方を検討することを期待したい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の大まかなスケジュールに沿い、食事や入浴時間は決まっているが、一人ひとりの生活パターンを把握し、希望に沿って臨機応変に対応している。拒否した時は無理強いしない。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器洗いをできる入居者には、手伝ってもらえるように支援している。食事介助が必要な方が増えたが、一方的な介助にならないように、なるべく自分で食べる場所を見守るよう努めている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的な入浴日は決めているが、入りたい意志の強い方には希望通り対応している。入浴を拒否する入居者には、声かけなどに工夫して、入ってもらえるようにしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	近隣の小学校の行事に参加し、運動会、うちわ作りや学童保育へ出かける機会を設けている。カラオケや外食のために外出を希望する方には職員が付き添い、信頼関係を構築した。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	花の水やりを一緒にしたり、散歩したり、喫茶店へ行ったり、遠足へ行ったり、外出する機会を多く作るように心がけている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホーム建物前は車の往来が激しく安全重視の意味でからも玄関は施錠している。十分な見守りのもと、ドアを開放することもある。	○	スタッフが常時いる時は、時間を決めて玄関の鍵を開けるなどを検討している。今後も検討を継続することを期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練を年2回実施している。消火器の使用法や夜間の誘導法、停電時の非常灯の確認等について職員への周知に努めている。消防署からのアドバイスや注意事項を壁に貼っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日入居者の体重を計り、月1回は血液検査を行って、それらをもとに医師から栄養状態についての指示を受けている。入居者各々の栄養摂取総量、水分量を職員間で大まかに把握し、献立にも配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアで季節感を感じられるように、共有スペースの装飾等に工夫をしている。ソファやマッサージ機が備え付けられ、自由にくつろぐことができる。毎日の日付や曜日を入居者に伝え、人形等を置き、入居者に良い刺激となるよう配慮している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ガラス製品やはさみ等危険なもの以外は入居者の馴染みの家具や調度品を部屋に取り入れてもらうよう、家族と話し合い、相談し、入居者が居心地良く過ごせる配慮に努めている。		

※  は、重点項目。